

# 精神障害者と福祉実践Ⅱ

2単位

担当教員：青木 聖久

当事者の声や科目担当者の講義等を通して、精神障害者の生活支援の実際、及び可能性について学ぶ

## 講義目的・到達目標

### 「暮らし」と「命」

本科目は、「精神障害者と福祉実践Ⅰ」の発展科目である。したがって、①精神障害者理解、②精神保健福祉士(PSW)をはじめとする社会福祉実践、についての基本的理解を前提として授業をすすめる。そのうえで、精神保健福祉の今日的課題について、広範囲に、かつ、深く掘り下げていく。そのようなことから、本科目では、発達障害や高次脳機能障害、さらには自殺問題等にまで、対象・範囲を広く設定する。そして、最後には、全体のなかで共通する「暮らし」や「命」ということについて追求をする。

### 活かすことによって生かされる

「精神障害者の生活支援」について明らかにする。とはいえ、社会福祉実践は、精神障害者や家族から見て、支援内容がわかりづらかったりする。加えて、支援者自身も、実はわかりづらい側面がある。そのようなことから、利用者及び支援者にとって、ニーズを共有しやすい所得保障、とりわけ障害年金制度を切り口にして、生活支援について迫る。加えて、本科目では、これらの学びを通して、受講している皆さんが、「社会経験を活かすことによって、社会で自分自身が生かされる」ということについて考えていきたい。

## 講義の構成

### 講義の流れ

講義は、3つに区分することができる。1つ目は、広い範囲の精神障害者を知ると共に、生活支援とは何かについて科目担当者より講義する。次に、これらのことを、よりリアルに、かつ実践的に引き寄せるために、精神障害を有する本人や生活支援をしている支援者をゲスト講師に迎え、授業内容を深める。2つ目は、具体的な生活支援として、科目担当者が、障害年金制度を用いた実践的な社会福祉実践を紹介する。また、専門的な支援活動を行っている者をゲスト講師に迎え、実践的な話をしてもらおう。3つ目は、メンタルヘルスや自殺問題等を取り上げると共に、社会経験を有する社会人学生のストレンダスに着眼した授業を展開する。

1 様々な精神障害の内容、及び、精神障害者の生活支援の実際を知る

2 精神障害を有する本人や家族の話、PSW等の支援者の話を通して理解を深める

3 グループ討論を通して、「自分及び自分たちがなすべきこと」について考える

4 社会福祉実践の具体的な内容を実践的な観点から伝える

5 今日的な精神保健福祉の課題を知ると共に、社会経験の活かし方について吟味する

### 講義のポイント

2日間で伝える内容は、広範囲にわたる。対象とする事柄には異なる部分が少なくない。だが、それらを社会福祉の視点から捉えた時、共通する部分が多い。ぜひ、授業では、生活の観点から、疾患や障碍そのものではなく、そのことによって、暮らしにどのようなことがもたらされているかを理解してもらいたい。そのためにも、科目担当者が、約20年間の実践等をもとに、まとめている著書(下記の参考図書)や、ゲスト講師との話を積極的に用いる。著書では、掲載されているオリジナル図を主に用いる。ゲスト講師からの学びについては、その魅力を伝えられるように、トークによって、人柄が受講されている皆さんに見えるように努めたい。記憶に残る授業を目指している。

## 受講するにあたって

- ①事前学習のすすめ 下記の参考図書を読み、「精神障害者の生活支援とは何か」、ということをも自分のなかで言語化できるようにしておいてもらいたい。
- ②参考図書 青木聖久『精神障害者の生活支援 ― 障害年金に着眼した協働的支援』法律文化社、2013
- ③評価基準 基本的には、科目修了試験の内容と出席による。ただし、本科目では、グループ討論を重要視している。そのことから、グループ討論の講の出席は必須として位置付けるものである。
- ④より学びを深めるために 「地域学習会」を勧めたい。これまで、精神障害者の生活支援の先駆的实践を展開している「べてるの家」(北海道)、「JHC板橋」(東京都)、「やどかりの里」(埼玉県)等に十数名の学生さんたちと行ってきた。地域学習会では、見学もさることながら、学生相互に、語り・聴き・共感できることにこそ意義があると思っている。